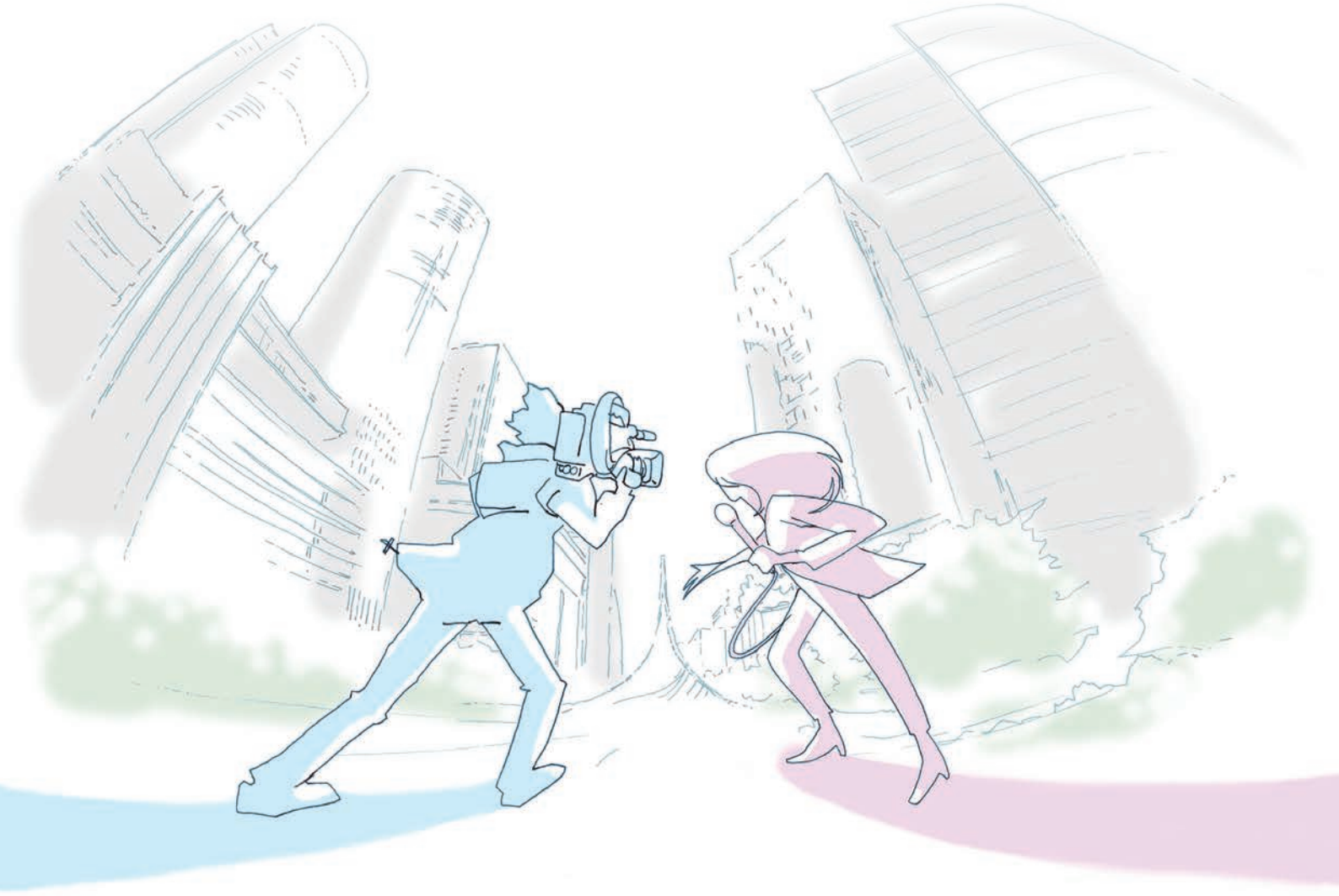
東海テレビ　この１年の取り組み

2017



東海テレビ放送株式会社

はじめに

東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長
内田　優

2011年8月4日の「ぴーかんテレビ不適切テロップ問題」（ぴーかん問題）から6年が経過しました。「ぴーかん問題」を知らない世代も増えていますが、重大な過ちを決して風化させない決意のもと、コンプライアンスの推進、放送倫理向上に向けた取り組みを継続しています。
本報告は2016年7月から1年にわたり、放送倫理意識の向上、岩手県をはじめ東北地方の被災地支援、放送事業を通じた社会貢献など、弊社で実施してきた取り組みについてまとめたものです。
放送倫理向上に向けては、外部講師を招いた全社研修会や勉強会を継続的に開催しています。「放送倫理を考える日」と定めた8月4日の全社集会では、各部署からヒヤリ・ハット事案を中心に報告をし、再発防止策の情報を共有しています。
また再生の取り組みについて3年ぶりにアンケートを実施しました。これまでの取り組みに対して概ね評価する声が多い中、形骸化を懸念する意見もあり、社内コミュニケーションや倫理意識の向上には継続的な努力が必要であることをあらためて認識しました。アンケート意見を反映して「内部通報制度」、「ＳＮＳガイドライン」を再整備するなど、内部統制の強化にも努めました。
被災地支援では、ニュース・報道番組36本と情報番組8本の放送を通じて、被災地の復興に向けての現状、課題を伝えるとともに、岩手を中心とした東北の名産品を取り上げ、復興の一助となるよう発信してきました。また、昨年夏、東北に甚大な被害を与えた豪雨災害支援のため、社内外で募金活動を実施、寄せられた善意をお届けしました。
第三者の視点からアドバイスを頂いています「オンブズ東海」は年４回委員会を開催し、コンプライアンスに関する事例や放送倫理活動を中心に詳しく報告しました。各部長で構成する「コンプライアンス責任者会議」では、放送倫理やコンプライアンス面での社内チェック、情報共有を図っております。
弊社は、地上波ローカル局として、地域に密着した特別番組も多数制作しております。中でもドキュメンタリーには力を入れており、愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンに住む老夫婦の生活を紹介した番組「人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり」は、日本放送文化大賞のグランプリをはじめ数々のコンクールで高い評価を得ることができました。
弊社は来年、開局60周年を迎えます。これからも放送倫理の重さを胸に刻み、放送の公共性・公益性を自覚し、正確かつ有益な情報をいち早く発信することで「愛され、信頼される地域最良のテレビ局」の実現を目指してまいります。視聴者はじめ関係者の皆さまには、今後も弊社の活動に対し、一層のご支援、叱咤激励をいただきますよう、お願い申し上げます。

＜ビジョン＞　愛され、信頼される地域最良のテレビ局

＜基本理念＞

1．放送の持つ公共性、公益性を深く自覚し、
社会的使命感と高い倫理観を持って職務を遂行する。

1．ジャーナリズムを堅持し、表現の自由を守り、
正確で迅速な報道を通じて視聴者の知る権利にこたえる。

1．良質な番組を制作、イベントや事業を通じて、市民生活に役立つ情報と
健全な娯楽を提供し、地域文化の向上、福祉の増進に努める。

1．ライフラインとしての使命を自覚し、放送継続を最優先に、
地域の安全・安心に寄与する。

1．放送局として自主・自立を守るため経営の安定を図る。

＜基本方針＞

1．安全な制作体制のもと、自社制作番組を充実させ、
積極的に情報発信するとともに、視聴率の強化に努める。

1．コンプライアンスの推進と放送倫理教育を徹底した上で、
プロフェッショナルな放送人の育成を進める。

1．東海テレビ、グループ会社、外部スタッフのコミュニケーションを密にし、
活力ある、行動し、挑戦する職場作りに努める。

1．開局60周年に向け、会社のブランド力向上を目指す。

1．災害時の放送事業継続のため、放送計画案を徹底させるとともに、
設備等の強化を図る。

1．震災被災地への支援を継続する。

1．大型設備投資をはじめとする支出と総収入を精査し、体質強化を図る。

CONTENTS

01　はじめに
02　ビジョン・基本理念・基本方針
03　放送倫理の意識向上への取り組み
06　東日本大震災・被災地支援の取り組み
09　地域社会への貢献
15　この1年の主な取り組み
16　第三者意見　オンブズ東海
17　第三者意見　社外アドバイザー
18　おわりに

放送倫理の意識向上への取り組み

東海テレビでは、コンプライアンス、放送倫理を身に付けた放送人を育成するため、研修や勉強会を設けています。

平成28年度放送倫理を考える全社集会

オンブズ東海　神尾隆 委員長

東海テレビでは「ぴーかん問題」が発生した8月4日を『放送倫理を考える日』と定め、「放送倫理を考える全社集会」を毎年開催しています。昨年度の集会は、東海テレビ、グループ会社の役員・従業員のほか、外部協力会社のスタッフなど、372名が参加しました。

冒頭、内田社長から「常に自己点検を怠らず、視聴者ファースト。継続して信頼回復に勤めなくてはならない」と挨拶がありました。

さらに「ぴーかん問題」から5年という節目を迎え改めて問題の原点に立ち返り、各部署の中堅社員がヒヤリ・ハット事例やトラブルの再発防止策、コミュニケーション、放送倫理、コンプライアンスなどについての取り組みを報告しました。

また、昨年従業員や協力スタッフを対象に3年半ぶりに実施した「再生の取り組みについてのアンケート」の結果概要を報告し、今後取り組むべき課題などについて意識を新たにしました。

集会には東海テレビの第三者機関である「オンブズ東海」委員も出席し、神尾隆委員長から、「番組を作る会社は、番組を作る人を育てないといけない。そして高い危機管理意識を持つことがこの会社の企業文化となるように…。」との言葉をいただきました。

集会後に行ったアンケートでは、参加者の7割以上が「非常に有意義」「有意義であった」と答え、「多忙な中で放送倫理を忘れがちであるが、集会に参加することであらためて大切な事だと認識するきっかけとなった」「今後は若い世代の報告も聞きたい」などの意見がありました。

放送倫理を考える全社集会

平成28年度下期放送人研修会（平成29年2月20日実施）

「テレビをつくる人をつくる」「次の世代に良い土を残す」「打率より打数」「機会の前髪をつかめ」…元フジテレビのプロデューサーで、現在はワタナベエンターテインメント会長の吉田正樹さんを講師に招き実施した平成28年度下期の放送人研修会。吉田さんが放つメッセージの一つ一つには、モノづくりの哲学が込められていました。

「夢で逢えたら」「笑う犬の生活」など、フジテレビのバラエティー番組を多く手掛けた吉田さんがどんな話をするのか興味津々。「笑う犬」の名物キャラ“ひろむちゃん”を引き合いに、「すべての笑いは批評である」「バラエティはドキュメンタリーに通じる」といった話は、「確かにそうだった！」と誰もが納得できるものでした。テレビのど真ん中にいた吉田さんの話には説得力があり、メディア激変の渦中にあるテレビのことを改めて考えるきっかけになりました。

どこか閉塞感が漂う最近ですが、参加者からは「明日からもう少し仕事を頑張ってみようという気になりました」という若手から、「もっと早く話を聞きたかった」というベテランまで、前向きな意見が目立つ研修会になりました。

講師・吉田正樹 氏

平成28年度下期放送人研修会

ソーシャルメディア利用ガイドライン 改定説明会

昨今、フェイスブックやツイッターなど「ソーシャルメディア」が普及し、便利な反面、様々なトラブルの事例が明らかになっています。
今年4月、これまで運用していた「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を一部改定し、時勢に合わせトラブル回避や情報セキュリティ保護に配慮しながら、利便性も併せ持つものとしました。例えば、公表前の情報発信は原則禁止としながら、社内で認められれば発信もありうる、といったルールにしました。また詳細に注意事項を箇条書きにして認識しやすくしています。
これらの内容について4月19～26日にかけて合計8回「ガイドライン改定」の説明会を行いました。東海テレビ、グループ会社、協力会社スタッフの方々あわせて278名が参加しました。また、東海テレビプロダクションでも5月22日開催し、34名が参加しました。説明会では改定のポイントだけでなくトラブル事例なども紹介し、便利な反面、トラブルが起きやすいサービスであることを理解してもらうよう注意喚起しました。

「ヘルプライン東海」スタート

東海テレビでは、社会環境や法制度などが変化し、内部通報制度が重要視される中、4月1日、内部通報制度の内容を改定し、名称も「ヘルプライン東海」としてあらためてスタートしました。改定のポイントは ①原則実名通報としながら、匿名の通報でも対象とする。②法令違反やハラスメントの通報だけでなく、職場環境など相談も受け入れる、という運用ルールとしました。
ハラスメントの訴えの受け皿というだけでなく、きめ細かく相談などにも対応し、働きやすい職場を作る窓口とします。

平成29年度上期放送人研修会（平成29年7月20日実施）

7月20日、東海テレビでは上期放送人研修会を開催し、東海テレビとグループ会社の従業員や、その他協力会社スタッフなど、午後の部・夜の部合わせて286名が参加しました。
今回の講師は㈱テレパック取締役プロデューサーで、全日本テレビ番組製作社連盟理事の沼田通嗣氏にお願いしました。「番組作りとリスクマネジメント～製作会社から見たテレビ局」というテーマで、ご自身の豊富な経験から、リスクを如何に乗り越えて、ドラマやバラエティなど世に送ってきたかを講義していただきました。理不尽な要求に対して、毅然とした態度で切り抜けたこと。出演者の体調について、情報管理を徹底させたことなど、危機的状況を乗り越え、番組を作り上げてきた経験を語って頂きました。

講師・沼田通嗣 氏

平成29年度上期放送人研修会

コンプライアンス責任者会議

危機管理の情報共有の場として継続してきた「コンプライアンス小委員会」と「情報セキュリティ小委員会」を統合、2013年に「コンプライアンス責任者会議」として今に継続しています。この会議は3カ月に1回開催し、コンプライアンス責任を担う各部部長とグループ会社のコンプライアンス担当者が出席し、リスク情報の共有と危機管理意識の向上に努めています。各部であったトラブル案件やヒヤリ・ハット事例、法令等の再確認など、放送局やそれに関わる業務に関連する様々なテーマを取り上げています。こうした事例を共有することで、再発の防止につなげるとともに、時々刻々と変化する放送を取り巻く社会環境に適正に対応できるようにしています。2016年度は「ぴーかん問題」から5年目という節目の年でもあったため、東海テレビの従業員やグループ会社従業員、協力会社のスタッフの意識を確認するためのアンケート結果を報告したり、内部通報制度の改定を報告しました。

コンプライアンス委員会

「コンプライアンス委員会」は法令を守り、公正で誠実な企業活動を実践すること、また情報資産の安全かつ適正な運用管理を図ることを目的として東海テレビとグループ会社の役員を中心に構成された組織です。年2回開催し、番組やイベントを中心としたコンプライアンス関連の情報共有を行っています。2015年5月の改正会社法施行に伴い、グループ会社全体の業務の適正を確保するための体制強化に努めてきました。
2016年度は、「ぴーかん問題」から5年の節目で実施した意識調査アンケートの結果報告や内部通報制度の運用ルール改定、ソーシャルメディア利用ガイドラインの改定について事務局が報告しました。特に、近年普及著しいソーシャルメディアのリスクについては、顧問弁護士から事例を交えた説明があり、ネット社会の危険性と、会社として注意すべき点について改めて意識を高めました。

コンプライアンス通信

コンプライアンスに関する様々な情報を、毎月1回、東海テレビの役員、従業員、協力会社のスタッフなどにメールで配信をしています。ヒヤリ・ハット事例やＢＰＯ（放送倫理・番組向上機構）事案などを全社で共有し、放送事故の防止や放送倫理意識の向上に努めています。

オンブズ東海

「オンブズ東海」は当社の放送やイベントを監視し、視聴者の皆様との信頼関係の構築に寄与することを目的に2012年1月に発足した第三者機関で、現在、経済・学術・法曹界の専門家3名の委員で構成されています。
年4回開催される委員会では、視聴者の皆様から寄せられたご意見やコンプライアンスに関する事例、放送倫理や社会貢献の取り組みを中心に、社内で見落としがちな課題を第三者の視点から厳しくチェックし、意見やアドバイスをいただいています。また委員は、東海テレビで定期的に開催する放送倫理に関する研修会、8月4日に開催する「放送倫理を考える全社集会」にも毎回出席し、当社の取り組みを実際に確認していただいています。

オンブズ東海委員会

オンブズ東海　委員長
神尾　隆氏
NPO法人「ささえあい」理事長

オンブズ東海　委員
橋本 修三氏
橋本法律事務所 弁護士

オンブズ東海　委員
東　珠実氏
椙山女学園大学
現代マネジメント学部 教授

東日本大震災・被災地支援の取り組み

東海テレビでは、東日本大震災で被災した岩手県など、東北地方の支援も重要な活動と考えています。これからも、番組やイベントなど様々な活動で支援をしていきます。

大谷主義・福島県川俣町の記録

2017年3月10日(金)放送
報道部　小室 拓人

これは行政騒動から始まった被災地とのつながりの物語です。
福島県川俣町の原子力災害対策課課長・宮地勝志さんは、震災当時、愛知県の日進市役所に勤務していて、復興のためにと川俣町産の花火を日進市の花火まつりで打ち上げることを計画。しかし、花火大会直前、花火の放射線量の風評被害を恐れた日進市は、打ち上げを中止に。「被災地を傷つけた」とバッシングを浴びた市は、お詫びとして職員の宮地さんを川俣町へ派遣します。派遣が終わっても宮地さんは市役所を退職して川俣町へ移住。今も川俣町役場で働いています。
行政騒動があれば組織防衛を優先して形式的なお詫びで終わらせてしまいがちですが、宮地さんは違いました。組織ではなく、個人として被災地と向き合いました。
宮地さんの姿からは、「復興」がいかに複雑で困難な道のりなのかが伝わってきます。原発事故は山里の高齢化と過疎化を一気に加速させました。避難した人が故郷に戻るのが本当に幸せなのかわからないほどに。今年3月末に避難指示が解除になり、政府や電力会社はこれを区切りとしています。宮地さんは言いました「避難指示解除がスタートラインと言いますが、その言葉すら受け入れられない人がいるのです」と。

被災地を歩く大谷氏と宮地氏

感動と感謝！ピーター&マギーの三陸旅

2017年3月10日(金)放送
制作部　古田 直樹

「スイッチ！」は今年も東日本大震災の“被災地の今”を伝えるため、特集コーナーで『感動と感謝！ピーター&マギーの三陸旅』を放送しました。金曜コメンテーターのピーターさんが、宮城県出身・名古屋在住のマギー審司さんの案内で、復興が進む宮城県石巻市や岩手県陸前高田市を訪れました。石巻では再建されたサバの缶詰工場を、そして陸前高田では“奇跡の一本松”近くの商店などに立ち寄り、地元の方々の生の声を聴きました。陸前高田の商店の女性は「6年経ちますが復興はまだまだゆっくりです」と話し、ピーターさんは時折涙ぐみながら耳を傾けました。こうした被災地の現状と合わせ、特集では日本三景・松島や地元グルメも紹介、東北の魅力を伝えました。取材後、ピーターさんは「皆さんが粘り強く前を進む姿勢を目の当たりにしました。これからも東北を思っていきたい」と話し、視聴者からは「震災の記憶が風化しないよう今後も取り上げてほしい」「東北産の物を食べたり、旅行に行くという支援の形もあると思う」などのメール・FAXを多数頂きました。今後も「スイッチ！」は番組を通じて被災地支援をしていきます。

震災がつないだ絆
～岩手の材木屋と愛知の音楽家～

2017年6月11日(日)放送
制作部　鵜澤 龍臣

「2000人近い人が一緒に流されたんです。この松にも命が宿っている」。岩手県陸前高田市には震災前、約7万本の松林、「高田松原」がありました。そのほぼ全てが津波でなぎ倒されましたが、地元の製材所ががれきの中から拾い集め、楽器や仏像として残す活動を続けています。6月11日放送のスタイルプラス「東海仕事人列伝」では、この活動を紹介。愛知県尾張旭市の鍵盤ハーモニカ奏者・吉田絵奈さんの思いに迫り、津波で流された“被災松”が鍵盤ハーモニカとして生まれ変わるまでを追いました。そして、完成した被災松楽器による陸前高田市での演奏会も撮影。音色を聞き、「松風のような音色。高田松原は陸前高田のシンボル」と話した男性や、涙を浮かべ「高田松原は子供の頃からの遊び場で、なくなったことを受け入れられなかった」と語った女性もいました。故郷のシンボルを失った悲しみを乗り越え、新たな形に残し、次の世代へつなぐ。6年目の被災地の今です。

被災松鍵盤ハーモニカ

復興に区切りはない

経営戦略室　野瀬 義仁

陸前高田市の震災遺構・道の駅（高田松原）

「世間では五年ひと区切りといわれますが、次は十年じゃないんです。震災の復興は六年目も七年目も続くんです。」昨夏、内田社長とともに岩手県庁を訪れた際に聞いたことばです。心に沁みました。
五年ひと区切り。十年ひと昔。ややもすると私たちは響きのよい数字で年月に区切りをつけてしまいがちです。
翌日訪れた陸前高田市。そこでは、津波で甚大な被害を受けた町の中心部の土地をかさ上げする工事が営々と続けられていました。
復興に向けた努力に、区切りはありませんでした。

８・４。
七年目を迎える私たちは…。

JA岩手訪問

東海テレビ感謝祭2016 復興支援ブースでの『地元』のPR

2016年10月22日（土）～23日（日）
営業推進部　杉山 祐輔

東海テレビが『地元』の人々に感謝の気持ちを伝えるイベント「東海テレビ感謝祭」。
今回は東北三県（岩手・宮城・福島）に加えて、この年の4月に地震の被害にあった熊本県のブースも設け、「復興支援ブース」と銘打ち、2日間の来場者約16万人に対し、物産品の販売と観光ＰＲを行いました。
例年よりもブースサイズを大きくしたこともあり、岩手県の“いちご煮”や、宮城県の“ずんだ餅”などの定番商品だけでなく、各県とも様々な物産品をとり揃えて、イベントを盛り上げていただきました。
どの県の担当者からも、集客力のあるイベントで『地元』の物産品販売＆観光ＰＲの機会を設けたことや、東海テレビ社員による応援（ブースでの声出しなど）に対する感謝の声をいただきました。
小さいことでもいいので、我々が出来ることを継続していくことが、被災地の皆さんの力になるのだと、改めて感じた2日間でした。

東海テレビ感謝祭2016 復興支援ブース

東海テレビ福祉文化事業団
地域福祉の向上と被災地への支援を

「社会福祉法人 東海テレビ福祉文化事業団」は、1979年、開局20周年を機に設立され、東海地方の障がい者や高齢者、子どもたちの福祉の向上に携っています。
また、事業団では、災害援護事業もひとつの軸としており、この地方の災害だけでなく、2011年の東日本大震災の発災直後から義援金を募り、これまでに合計1億1660万円あまりを内閣府の窓口などに寄託しています。現在も、義援金受け付けは継続しています。
一方で、平成28年4月の「熊本地震」10月の「平成28年台風10号」に際しても、義援金を募り、被災地や被災した方々の役に立つようにしていただいています。
東海テレビ福祉文化事業団は、これからも地域福祉の充実をお手伝いするとともに、被災した地域を支援していきます。

この1年にお伝えした東北・熊本関連の主なニュース・情報番組・特別番組

N ニュース
S スイッチ！
SP スタイルプラス

2016年

7月 6日 N 名古屋で「いわて食の商談会」（名古屋市）

7月10日 N 久屋大通公園で「東北屋台村」（名古屋市）

8月17日 N 東日本・熊本地震の復興で民芸品販売（名古屋市）

9月 2日 N 台風被害TEC-FORCE追加派遣 台風10号（名古屋市）

9月 5日－9日 N 岩手県台風10号災害義援金の呼びかけ（名古屋市）

10月22日 S「東海テレビ感謝祭 スイッチ！」特別番組にて復興支援ブース（岩手県・宮城県・福島県・熊本県）・中継（名古屋市）

10月28日 S「いわて純情娘2016」2名が生出演～岩手の食と観光～岩手県産新ブランド米「銀河のしずく」新米プレゼント（名古屋市）

10月30日 N ふれあい市場まつり（名古屋市）

11月25日 N 復興お絵柿の収穫（豊橋市）

11月26日 N 陸前高田市長が教訓語る（名古屋市）

11月29日 S 全国ふるさとフェア（中日ビル）三陸産わかめ鮭の氷頭等・中継（名古屋市）

12月20日 N 気仙沼　女性店主の思い（気仙沼市）

岩手産米「ひとめぼれ」の社内販売での購入実績について

- 2016年4月～10月に、社内食堂で岩手産米「ひとめぼれ」を合計3470ｋｇ消費。
- 2016年10月～11月に、岩手産米「ひとめぼれ」新米の社内販売を実施。5ｋｇ入り3000円を265袋、合計1325ｋｇを購入。

2017年

1月10日 N 陸前高田の中学生が名古屋訪問（名古屋市）

1月25日 S 名鉄百貨店「宮城県の観光と物産展」・中継（名古屋市）

2月 2日 N 冬のふるさとフェア（名古屋市）

2月 8日 S 岩手・釜石市「中村屋」三陸海宝漬け～名鉄百貨店「全国逸品うまいものまつり」～（名古屋市）

2月11日 N 初公開陸前高田の被災松が楽器に…（名古屋市）

2月16日 N 復興銘酒「負けねえぞ」名古屋へ

2月17日 N 陸前高田の博物館と提携で調印（名古屋市）

3月10日 N「6年目の福島・避難指示解除も故郷は」（福島県）

3月10日 S 東日本大震災から6年～東北の旅 ピーターとマギー審司が宮城・松島から岩手・陸前高田へ（宮城県・岩手県）

3月11日 ＜報道番組＞『巨大地震に立ち向かう』

3月13日－15日 N 行ってみたらこうだった「東北お遍路」（岩手県・宮城県・福島県）

4月24日 S 春のふるさとフェア（中日ビル）岩手県ブースの三陸ワカメ、いくらの醤油漬け・中継（名古屋市）

5月 1日 N 東北・九州の復興支援（名古屋市）

6月11日 SP「震災がつないだ絆～岩手の材木屋と愛知の音楽家～」被災松鍵盤ハーモニカ（岩手県）

地域社会への貢献

東海テレビでは、地域最良の放送局を目指し、東海地方の魅力を引き出すとともに地域に貢献できる番組やイベントを続けていきます。

スイッチ!
1000回目の放送を終えて
2017年3月6日(月)放送
制作部　猪飼 健夫

2013年4月1日（月）の放送開始から4年後の2017年3月6日（月）が1000回目の放送になりました。それまで放送した時間はおよそ1700時間。節目の放送をPD（プログラムディレクター）として担当させてもらえたことは大変貴重な経験になりました。
1000回の節目に放送する上で何よりも考えたことは『視聴者に感謝を伝えること』です。そのため視聴者プレゼントは「宝くじ20枚を50人」計1000枚プレゼント。中継では「宝くじ」が当たるように大須商店街にある意外なパワースポット「億萬石」や喫茶「美奈須」で当選祈願をしました。プレゼント当選者の方から、「宝くじ」が当たりましたと言う情報がまだ来ていないのが気がかりですが、実は当たっていた人がいたことを切に願います。
ロケをしていると「スイッチ！見ているよ」「きょうの取材はいつ放送するの？見るね！」と地域の方に声をかけていただきます。とても嬉しいです。
これからも、信頼される、愛される番組を目指し、地域の方が見たいこと、知りたい情報を正確にわかりやすく伝えることを意識し、節目を迎え、改めて気を引き締めて放送にのぞんでいきたいと思います。

「スイッチ!」1000回目の放送

～地元愛あふれるぶらり旅～
ロンブー淳のスマホ旅！
制作局　川瀬 隆司

知られざる東海地方の魅力を紹介したいとの思いから企画したこの番組、旅するのは、ロンドンブーツ1号2号の田村淳さん。約240万人のフォロワーを持つツイッターの達人です。スマホを片手に、ツイッターで一般の人たちからおすすめの旅情報をもらい、それだけを頼りにぶらり旅をしていきます。
訪れるのは、あえて地元の人しか知らない穴場スポットやマイナーな場所。これまでに名古屋、岐阜、四日市などを訪れましたが毎回300件以上の情報が届き、従来の情報番組では紹介されない知られざる名物やお店などが続出！「ロボットの形をした水門」「靴屋さんが作る絶品パスタ」…どれも地元愛にあふれたものばかりで、淳さんも感動の連続。東海地方のことは熟知しているつもりでいた我々制作者も、知らないことばかりで改めてローカルの魅力は奥深く、歴史に溢れていると実感しました。

～テレビ版から劇場版への取り組み～
地域のドキュメンタリーを全国に広げる
報道部　伏原 健之

テレビ版の「人生フルーツ」は文化庁芸術祭大賞の受賞の他、日本放送文化大賞グランプリなど7つのコンクールで受賞をしました。
劇場版は、2017年1月2日に東京で公開が始まり、上映館は6月末現在、全国で80館以上に広がりました。観客動員数も15万人を超え、これはミニシアター系で上映のドキュメンタリー映画としては史上最高記録です。また、映画館だけでなく、自主上映会も約60カ所で開催が決まっていて、さらに数万人規模の観覧が見込まれます。
ドキュメンタリー番組の“映画化”は、2010年公開の「平成ジレンマ」に始まり、「人生フルーツ」は10作目となります。去年10月には、東京のポレポレ東中野でこれまでの10作品に加え、映画化されていない過去のドキュメンタリー番組12本を特集上映する「東海テレビドキュメンタリーの世界」が開催されました。上映期間は3週間に渡り、連日大盛況となりました。
放送エリアではない地域の劇場で、「人生フルーツ」をはじめとする東海テレビの作品が連日満員となる状況を目の当たりにし、着実に全国で東海テレビのファンの輪が広がっているのを実感しています。

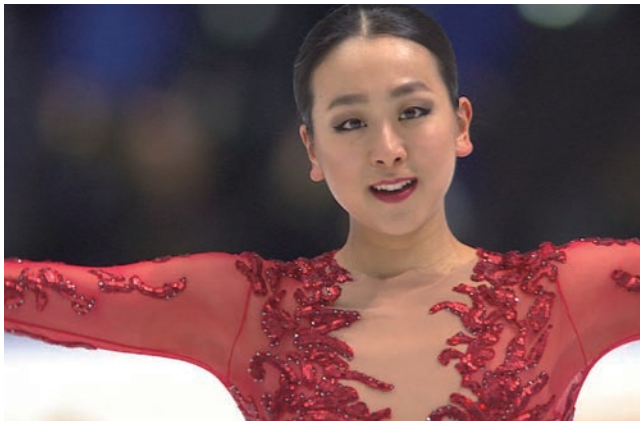
「人生フルーツ」から

『公共キャンペーンスポットCM』
堀川、ヤバくない？
2016年5月31日（火）放送
報道部　繁澤 かおる

報道部では6年以上にわたり交通事故や震災、戦争などをテーマにして、キャンペーンCMを作ってきました。去年のテーマは、名古屋市内を流れる「堀川」です。
江戸時代に名古屋城の築城のため掘られた歴史ある川ですが、高度経済成長期に、生活排水などが垂れ流され水質が悪化、その後、浄化に向けた市民運動の盛り上がりなどを経て、徐々に改善してきたという経緯があります。
東海テレビでも、長年にわたり「きれいになった堀川」を報じてきました。しかし、今もなお「汚い川」の状態に変わりはなく、全ての人の「無関心」が堀川を放置しています。
そこで、CMでは、わたしたちがいかに堀川に対し無関心であったかを表現しました。現実を見て見ぬふりをする大人に、川の存在すら知らない若者たち。この街の、無関心な人たちに届くように…との願いを込めました。
放送後には、視聴者から「堀川のことが気になっていた」という声をいただいたり、浄化に向けて市会議員連盟が立ち上がったり、再び川に注目が集まっています。堀川のこれからをみんなで考えていくことができたらと思っています。

第54回 ギャラクシー賞CM部門選奨

災害時の生放送対応訓練
報道部では2016年12月26日（月）三重県南東沖深さ20㎞を震源とするマグニチュード9.0の大地震発生想定した「生放送対応訓練」を実施しました。発災してから緊急スタジオ放送へ移行する手順や放送現場の安全確保、そして地震の影響による津波情報の送出方法などを確認する貴重な機会となりました。また、停電などの原因によるテレビ難視聴者に対して最新情報を伝える手段として、報道部が発信する情報をインターネット配信するテストをデジタルコンテンツ部が行い、部門をまたいで訓練することができました。今後も地域密着の生放送番組形式による視聴者への情報提供を念頭に、このように災害時のライフラインの機能を維持していく工夫も進めていきたいと考えます。



26歳・現役選手として最後のポーズ

Last Message

特別番組
浅田真央～ラストメッセージ～

2017年4月16日(日)放送
東海テレビプロダクション ディレクター　渡辺 克樹

私たちの地元・名古屋出身で、幼いころから大活躍を続けたフィギュアスケーター浅田真央選手が、4月10日夜、ブログで引退を発表しました。東海テレビが浅田真央選手の密着取材を開始したのは2003年4月のこと。かつて同じく地元を代表して戦った伊藤みどりさんの影響もあり、とりわけフィギュアスケートの人気の高い東海地区において、新しいスターの活躍をしっかりと伝えていくことに大きな意義を感じながら、気づけばあっという間に14年間も取材を重ねました。この間に伝えたニュースは数知れず。ドキュメンタリー特番も5本制作しました。そして最後の取材となった4月10日引退当日。真央選手は、東海テレビのカメラの前だけで引退に至った思いなどを独占告白してくれました。この様子がまとめられた4月16日放送「浅田真央～ラストメッセージ～」には、浅田真央という他に類を見ないスター選手を長きに渡って取材してきた成果が現れていたと思います。「地元のスター選手の活躍を伝える。」原点はそれだけですが、その原点の大切さをいつも忘れることなく、また次の取材に向かいたいと思っています。

12歳・「天才少女」とよばれて…

19歳・苦境を乗り越えて…

多岐に渡るイベントを通じ、活気ある街づくりを

事業部　鈴木　衛

事業部では、6月に8年振りの開催となる「名古屋平成中村座」を開催しました。名古屋城二ノ丸広場に江戸情緒あふれる芝居小屋を設置し、中村勘九郎さん七之助さんを始めとする歌舞伎役者が来名し1ヶ月間の公演を実施しました。全公演完売し約4万人のお客様に観劇いただきました。また2016年11月から2017年1月まで2ヶ月に渡り、ナゴヤドーム駐車場に特設会場を設置しシルク・ドゥ・ソレイユ最新作「トーテム」を開催し22万人を超えるお客様に来場いただきました。その他、クラシック音楽シリーズ「スーパークラシック2016」「しらかわホールプレミアタイム2016」、年末恒例の「大名古屋らくご祭2016」、屋外展開イベントとして「名古屋オクトーバーフェスト2016」「名古屋クリスマスマーケット2016」など様々なジャンルのイベントを実施しました。また、スポーツイベントでは、47回を迎えたゴルフトーナメント「トップ杯東海クラシック」「マンシングウェアレディース東海クラシック」のほか、11回目を迎えた愛知県市町村対抗駅伝競走大会「愛知駅伝」を開催しました。事業部では今後も良質で皆さまに楽しんでいただけるイベントを開催していきたいと考えております。

中村勘九郎
～名古屋城を背景に～

「名古屋平成中村座」(名古屋城二ノ丸広場・芝居小屋)

中学校 ダンスフェスティバル

2017年3月29日(水)放送
営業局　海野 仁志

平成24年度から中学校の体育の授業でダンスが必修化されたことに伴い、「おどれ！チュー学　中学校ダンスフェスティバル」を開催してきました。このイベントの目的は大きく3つあります。①ダンスの発表と他校との交流の場の創設。②中学校におけるダンス授業の活性化。③ダンス文化のすそ野拡大に貢献。

当初は愛知、岐阜、三重の三県下中学生を参加対象としてきましたが、昨年から静岡、長野を加え、中部5県の中学生を対象とし、2017年で第5回を迎え、3月18日に栄・オアシス21で開催致しました。今年はビデオ審査を通過した20校21チームが決勝大会に参加。過去3回優勝している弥富市立弥富北中学校が賞から外れたものの、弥富北中とそれぞれ先生同士に交流がある名古屋市立日比津中学校が優勝、愛西市立佐織西中学校が準優勝。生徒だけでなく先生同士の交流の場ともなっていることを印象付けました。また、このイベントがきっかけでダンス部が創部された中学校もあり、この地域のダンス文化のすそ野拡大にも貢献しています。

栄・オアシス21にて

アナウンサーによる 地域貢献活動

中日新聞『くらしの作文』音読

2015年10月より、中日新聞生活面掲載の『くらしの作文』を東海テレビの庄野俊哉アナウンサーが音読し、音声を東海テレビホームページで公開しています。2016年度は4月の高岳福祉会館サロン講座から2017年3月の名古屋市高年大学鯱城学園・公開講座まで34回の講座を数えます。声に出して読みあげる大切さを伝えてきた立場で「音読」の役割を改めて認識できる機会として、地域の皆さんと歩んできました。

http://tokai-tv.com/announcer/ondoku/

夏目漱石 作品　朗読会

明治村「呉服座」の舞台

江戸時代以来の伝統的な芝居小屋・呉服座（愛知県犬山市・明治村内）にて、2016年11月3日に東海テレビの庄野俊哉アナウンサーと藤本晶子アナウンサーが協同で夏目漱石の文学作品の朗読会を開催しました。会場に響き渡る局アナウンサーの声が、ダイレクトに地域の人々に届きました。

その他

フジテレビが系列各局とコラボレーションして、食育をテーマに展開する紙芝居と体操のイベント『ハロー！どっこくん。』にも東海テレビが協力し、アナウンサー、当社マスコットキャラクター『わんだほ』が出演しています。

2016年9月21日　岐阜県不破郡垂井町
　　垂井西保育園、垂井東保育園
2017年 7月 5日　愛知県丹羽郡扶桑町　柏森南保育園
　　愛知県尾張旭市　西部保育園

出張授業

技マルシェ（中部大学）

『技マルシェ』

【開催日】2016年10月11日（火）
【場所】中部大学（愛知県春日井市）
【対象】中部大学2年生のみなさん

地元メディアを代表し、局アナウンサーが『感動する情報を「いかに取材し、伝えるのか」テレビの核心に迫る』をテーマに地域の大学生に対し講義を展開しました。

『相手に気持ちが伝わるコミュニケーション』

【開催日】2017年2月23日（木）
【場所】名古屋市立飯田小学校（名古屋市北区）
【対象】名古屋市立飯田小学校6年生のみなさん

局アナウンサーが「相手に気持ちが伝わるコミュニケーションとは…」をテーマに地域の小学生に説明しました。

社内見学会（15校／112名）

2016年度は公募による社内見学を行い、小・中学生に対しテレビ局の業務や放送の仕組みについて、広く見聞体験していただき、各部門担当者から説明を行いました。

見学応募はこちらから
http://tokai-tv.com/csr/chiiki/bosyu.html

豊橋市立東陵中学校
2年生6名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

扶桑町立山名小学校
5年生10名と教諭1名
見学 カメラ機材室＋報道ニューススタジオ

私立愛知工業大学附属中学校
3年生5名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

名古屋市立冨士中学校
名古屋市立桜田中学校
1年生9名と教諭2名
見学 番組「スイッチ！」

名古屋市立天白中学校
1年生6名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

新城市立舟着小学校
4年生5名と教諭1名
見学 報道ニューススタジオ＋「スイッチ！」セット

ニュースキャスターから原稿読み取り裏技伝授

名古屋市立千種台中学校
1年生6名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

プロデューサーから生放送について説明

私立南山中学校 男子部
1年生9名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

スタジオセットについて美術プロデューサーから説明

名古屋市立今池中学校
1年生11名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

スポーツ中継についてアナウンサーが解説

名古屋市立南陽東中学校
1年生6名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

四日市市立富洲原中学校（2年生）
名古屋市立港北中学校（1年生）
生徒11名と教諭2名
見学 報道ニューススタジオ＋カメラ機材室

カメラワークについて報道カメラマンから指南

豊田市立浄水中学校
2年生6名と教諭1名
見学 番組「スイッチ！」

プログラムディレクターの仕事とは…

安城市立明祥中学校
2年生7名と教諭1名
見学 番組「いちばん本舗」

国際交流・文化顕彰

一般財団法人　東海テレビ国際基金

1994年6月、「東海テレビ国際基金」を設立後、2013年4月には「一般財団法人東海テレビ国際基金」となり、主に東海地方で、国際交流を目的として活動している非営利団体に対し助成を行っています。また、国際交流に貢献するため、東海地方で暮らす外国人や訪日外国人のために、この地方の伝統・文化・芸術・経済など生活や旅行などに役立つ情報を紹介するDVDを、日本語、英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語の各言語で制作し、各国領事館・市町村の国際交流団体・大学・図書館など約100箇所に寄贈しています。

東海テレビ文化賞

東海テレビでは、東海地方に在住または関係が深く、多年にわたり社会・文化・学術・産業などの分野で著しい功績を挙げた個人または団体に対し、東海テレビ文化賞を贈り顕彰しています。これまでに48回を数え、173人の個人と34団体を顕彰してきました。2016年は、伝統工芸分野から陶芸家の安藤日出武さん、芸術分野から地元バレエ振興に貢献された松岡伶子さん、学術分野から有機化学者の山本尚さん、社会分野からダウン症の人たちの芸術創作活動をサポートしているアトリエ・エレマン・プレザン（団体）を顕彰し、功績を紹介する特別番組を放送しました。

東海テレビでは、視聴者の皆様からの様々なご意見を参考に、よりよい放送のありかたを考えています。

番組審議会「私とテレビと東海テレビ」

「せっかく委員が集まり意見交換する場ですので、番組の審議だけでなく、テレビに関わる感想や意見を話してもらえれば、東海テレビとの関係がさらに緊密になっていくのではと考えました。」
2016年9月の番組審議会の席上、浅田剛夫委員長（井村屋グループ会長）のこの発案で、番組審議会に新たな議題が加わることになりました。その名も「私とテレビと東海テレビ」。テレビに関わる発言なら何でもＯＫというルールで、この1月からスタートしています。「取材される側から感じるテレビ局」「私がテレビを見る理由」「報道番組に思う」「ジャーナリズムとローカリズム」「テレビで拡がる私の人生」「もっと地域の報道を」「テレビ報道への期待」「放送の倫理性」…各界で活躍する委員が硬軟織り交ぜたテーマで、自身とテレビとの関わりについて、委員に自由に発言いただいています。
この企画をスタートすることになった背景には、誤報やねつ造、ヤラセなど、放送倫理上の問題について、これまで以上に厳しい目がテレビに注がれるようになった現状があります。これに伴い、法律で義務付けられた第三者機関である番組審議会の役割も一段と重視されるようになりました。番組審議はもちろんのこと、今の放送のあり方やこれを取り巻く社会環境など、多様なテーマと幅広い視点で意見交換できる場であることが求められています。このトライアルが機能すれば番審の活性化につながり、制作現場にうまく反映されれば、放送局の自主・自律も担保される、という好循環につながっていくのではないでしょうか。
「私とテレビと東海テレビ」の発言では、もちろん辛口のコメントも飛び出します。それでも「良薬は口に苦し」、この企画はこれからも続けていきたいと思います。

番組審議会

視聴者対応窓口

「視聴者対応の窓口です、こんにちは！」…毎日様々なメッセージが届く視聴者対応の業務は、番組審議室が担当しています。2016年度に寄せられた視聴者の皆さんからのメッセージは、メールが12,352件、電話・文書が11,456件の合計23,808件となりました。番組の放送予定や番組内で紹介されたお店の問い合わせ先、さらにお気に入りの俳優や歌手が出る番組に対する放送リクエストなど、様々なメッセージが寄せられます。問い合わせやリクエストだけではなく、ご意見や苦情もいただきます。最初は厳しい口調でかかってくる電話も、最後は「がんばってください」とエールを送ってもらえることもあります。視聴者の皆さんと直接話ができる最前線として、いただいたメッセージを番組作りに生かしていけるよう、日々心がけています。

社外モニター

東海テレビの社外モニターは毎年度上期と下期に分け、それぞれ10人の視聴者の方にモニターを委嘱、月４本程度の自社制作番組を視聴してもらい意見をいただいています。2016年度は合わせて54本の番組について様々な意見をお寄せいただきました。性別、世代、職業など、立場が違う方々の多角的な視点は、私たちテレビ局側にも多くの気付きを与えてくれます。
任期終了時には番組審議室の担当者とモニターとの懇談会を行い、テレビについてご意見を伺っています。

平成28年度下期モニター懇談会における主な意見

- 人を馬鹿にするような番組は見たくないし、そういう番組が一つでもあると嫌だなと思う。
- 「スイッチ!」などの番組を通じ、東海地方の情報をたくさん知ることができるので、ローカルの情報番組にはさらに頑張ってもらいたい。
- 最近は芸人同志だけが盛り上がり、視聴者が取り残されている気がする。
- 子どもの頃は、クイズ番組や歌番組など、視聴者が参加できる番組があり、それを見ながら自分も盛り上がれた記憶がある。テレビは娯楽のツールとしてずっと存在してもらいたい。
- テレビ番組は情報を得る最高のツールだと思う。 視聴率やスポンサーがないと番組が制作できないことは分かっているが、これからは高齢者や障がい者向けの番組を放送するのも一つのいい案だと思う。

この1年の主な取り組み

2016 平成28年

7月	放送倫理を考える月間
7月15日	平成28年度上期放送人研修会 講師：中川 達也 氏（弁護士）
7月26日	第10回コンプライアンス委員会
7月28日	内田社長　岩手訪問（～29日 被災地訪問）
8月 4日	放送倫理を考える全社集会
9月 8日	第12回コンプライアンス責任者会議
9月12日	「オンブズ東海」第19回委員会
9月15日	平成28年日本民間放送連盟賞 **【技術部門】** 最優秀賞「完全防水ハンドマイク」の開発 **【テレビ教養番組部門】** 優秀賞「人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり」 **【特別表彰部門　放送と公共性】** 優秀賞「戦争を、考えつづける。」 **【テレビCM部門】** 優秀賞「堀川、ヤバくない？」
10月22日	東海テレビ感謝祭（～23日・来場者約16万人）
	復興支援ブース（岩手県・宮城県・福島県・熊本県）
10月28日	2016　56th ACC CM FESTIVAL フィルム部門Aカテゴリー ACCシルバー賞 キャンペーンスポット「堀川、ヤバくない？」
11月 9日	第12回 日本放送文化大賞 テレビ部門　グランプリ 「人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり」
12月 6日	第13回コンプライアンス責任者会議
12月12日	「オンブズ東海」第20回委員会
12月27日	平成28年度文化庁芸術祭テレビ・ドキュメンタリー部門 大賞 「人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり」

2017 平成29年

2月20日	平成28年度下期放送人研修会 講師：吉田 正樹 氏（ワタナベエンターテインメント代表取締役会長）
3月 2日	第14回コンプライアンス責任者会議
3月13日	「オンブズ東海」第21回委員会
3月22日	第11回コンプライアンス委員会
4月19日	SNS利用ガイドライン改定説明会（～5月22日）
6月 1日	第54回ギャラクシー賞 **【テレビ部門】選奨** 「きずあと 101歳　戦争と平和のレクイエム」 **【CM部門】選奨** 「公共キャンペーンスポット『堀川、ヤバくない？』」
6月 6日	第15回コンプライアンス責任者会議
6月12日	「オンブズ東海」第22回委員会

第三者意見

オンブズ東海 委員
東　珠実
椙山女学園大学教授

今年も、東海テレビのすべての関係者が、改めて放送倫理の重要性を強く自覚し、襟を正す機会を共有する「8月4日」を迎える。昨年1月からオンブズ東海の委員を務めるなかで、2011年の不適切テロップ問題を契機に、東海テレビがいかに徹底したコンプライアンスと積極的なCSR活動に取り組んでいるかを認識してきた。放送倫理向上に関する研修会やコンプライアンスの体制、「再生の取り組み」アンケート、東日本大震災・被災地支援、地域貢献活動など、その内容は多様であるが、いずれも、定期的・恒常的な取り組みとして定着しつつあることは評価に値する。放送倫理と社会貢献は、「愛され、信頼される地域最良のテレビ局」という東海テレビのビジョンの核となる。

放送倫理の醸成については、平成28年度下期放送人研修会で、講師の吉田正樹氏が「テレビをつくる人をつくる」として、「後藤田五訓」を引かれたことが記憶に新しいが、まさに東海テレビに関わる一人一人の放送人としての自覚とリテラシーが、一層求められるところである。また、今年4月の「ソーシャルメディア利用ガイドライン」の改定や「内部通報制度」の運用の改定は、時代の流れに即した倫理観を備えた人づくりに、全社を挙げて取り組む姿勢を反映したものといえよう。

一方、社会貢献活動については、昨年6月から小中高校生の社内見学の「一般公募」が始められたが、これに対し多くの応募があり、子どもたちのテレビ局に対する関心の高さがうかがわれる。また、「新聞音読講座」は、テレビ局の人材を活用した独自のCSR活動であるといえる。今後も、本業の特徴を活かした地域貢献活動の充実に期待したい。

最後に、この1年を振り返るとき、東海テレビ報道部が制作したドキュメンタリー『人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり』が第12回日本放送文化大賞のグランプリほか各賞を受賞したことが印象深い。昨年の「放送倫理を考える集会」で、オンブズ東海の神尾隆委員長が「番組で失った信頼は番組作りで取り戻す」と言われたように、人々の心に響く社会的に意味のある番組を制作することこそが、東海テレビの社会的信頼を回復させ、地域社会における存在意義を確かなものとする。文化を創造し発信する主体として、また未来を担う子どもたちに夢を与え豊かな情操を育む存在として、自由で公正な企業風土を創り上げ、企業価値の一層の向上に努めていただくよう願いたい。

東　珠実
あずま たまみ

椙山女学園大学現代マネジメント学部教授。博士（商学）。日本消費者教育学会会長。専門は消費者教育、生活経営学。公職としては消費者庁消費者教育推進会議委員、愛知県消費生活審議会会長などを務めている。

第三者意見

社外アドバイザー
音　好宏
上智大学教授

東海テレビでは、「ぴーかんテレビ不適切テロップ」の事件以来、8月4日を「放送倫理を考える日」として、全社的な集会を続けるとともに、継続して「放送人研修会」の開催等、他局ではあまり見られない数々の全社的な取り組みを行っている。第三者の視点から、東海テレビの日常的な活動を定期的に検証し、そのありようについて直言する「オンブズ東海」の存在も、設置から6年が経ち、東海テレビ独自の倫理検証制度として定着したと言えるだろう。

私自身、この間の東海テレビの取り組みについては、6年前の事件をきっかけに設置されたコンプライアンス推進部から定期的に報告を受けるとともに、全社的な集会にも定期的に参加させていただいた。それらの東海テレビの活動を、継続的に見続けてきた者として、放送倫理に対する姿勢、並びに、それに関わる諸活動は、高く評価出来るものであると確信している。

そのようないまだからこそ、二つのことを指摘しておきたい。

一つは、6年という時間である。昨年、5年目という節目を迎えた。昨年3月11日は、東日本大震災関連の番組やニュースも多かったが、やはりこの3月は、明らかに東日本大震災関連の番組やニュースは減少した。昨年も指摘したことではあるが、6年という年月が経ち、東海テレビ社内には、ぴーかん問題が発生した際に、まだ東海テレビで仕事をしてはいなかった人たちが、新たに東海テレビという組織に加わった。その割合は、今後もますます増えていくばかりである。もちろん、あの事件を経験した人たちも、その記憶が遠のいていくことは避けられない。

だからこそ、意識的に自らの組織で発生した不幸な事件を思いだし、そこから得た教訓を反芻することが重要だ。

加えて、もう一点指摘しておきたいことは、日本で放送倫理に関して起こるさまざまな事象が、数年前に比べると、社会問題化してしまうケースが明らかに増え、かつ、そのハードルが低くなってきている点である。いまの日本の放送界で起こる放送倫理に関わるさまざまな事象に関して、東海テレビは、「対岸の火事」として聞き流すことはせず、自らのこととして考えてみること、また、自らの組織で同様の事象が起こった場合には、どう対応するべきか、シミュレーションを行ってみることが重要ではなかろうか。

「コンプライアンスを強化すると、現場が萎縮する」といった指摘をするジャーナリストもいるが、そんなことはない。コンプライアンスへの目配りと、自由闊達な現場作りとは矛盾するものではない。コンプライアンスへの配慮を怠ることなく、自由闊達でクリエイティビティの高い現場をどう育てていくのかを、東海テレビという組織を構成する一人一人が、自らの視点で、考えていくことが大切なのである。

放送倫理は、東海テレビを支える一人一人に問われている問題であることを忘れてはならない。

音　好宏
おと よしひろ

上智大学文学部新聞学科教授。
北海道札幌市生まれ。
1990年 上智大学大学院文学研究科新聞学専攻博士課程修了。
日本民間放送連盟研究所勤務後、1994年より上智大学専任講師、
その後、助教授を経て現職。専門はメディア論。

おわりに

「東海テレビこの1年の取り組み2017」を最後までご覧いただきありがとうございました。
東海テレビとしては「ぴーかん問題」からすでに6年がたち、これを風化させずに次のステップにつなげるべく
地道に放送倫理の向上や社会貢献など様々な取り組みを積み重ねてまいりました。
今後も放送・催事などでの地域社会への還元を目標に、岩手県など東日本大震災復興支援に努め、
新たに多くの良質コンテンツを皆様に提供してまいります。

東海テレビ放送　コンプライアンス宣言

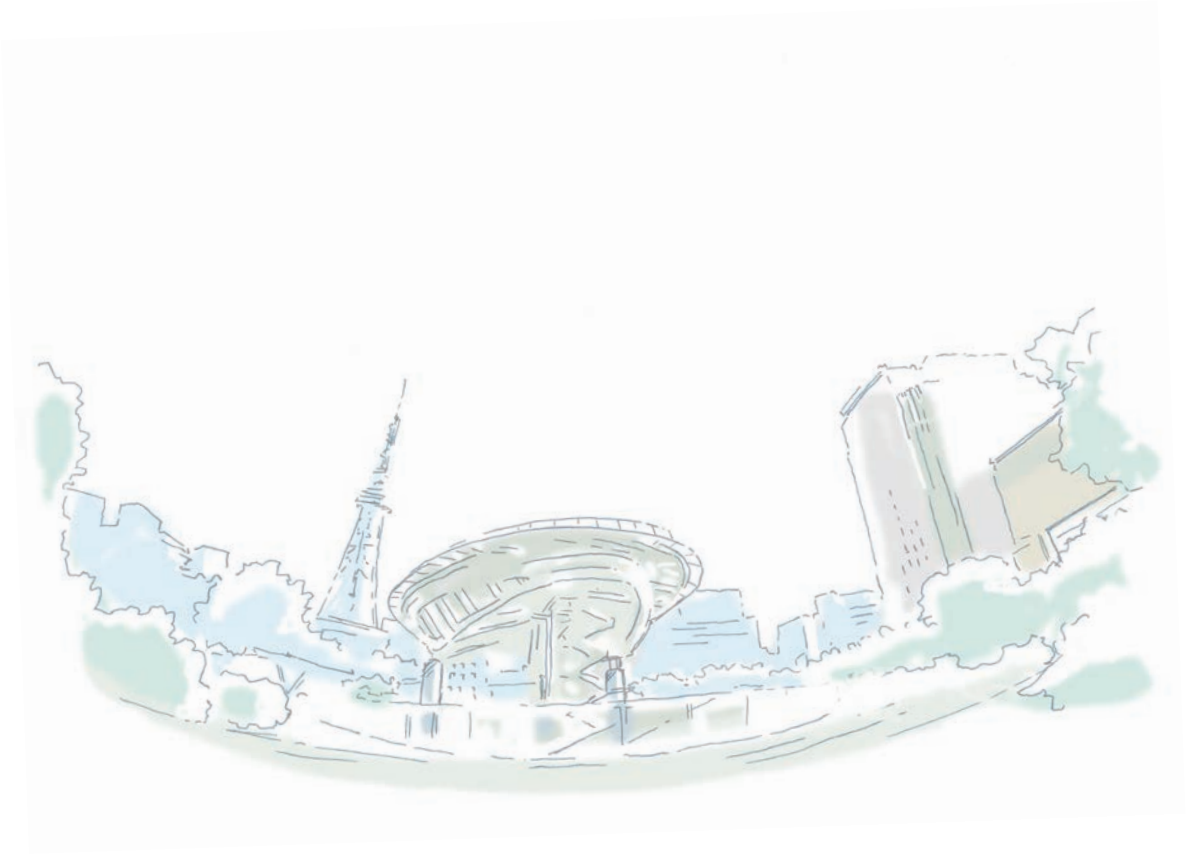
東海テレビ放送は、放送事業の高い公共性や社会的使命を常に自覚しながら、
企業倫理を守り地域社会に貢献することを目指します。
役員および従業員は地域の皆様からの厚い信頼と支持を得るため、
諸法令や社会規範を遵守するコンプライアンス経営を推進します。

コンプライアンス行動基準

私たち役員および従業員は、放送活動をはじめ企業活動を行う上で、
すべての法令を誠実に遵守するとともに、社会良識をもって、次のとおり行動します。

1. 法　令　遵　守	放送メディアとしての責任を自覚し、 高い倫理観を持って法令や社会規範を厳格に遵守します。
2. 社　会　貢　献	企業活動を通じて文化の発展、福祉の向上、 環境保全などの社会貢献に努めます。
3. 社会からの信頼	言論と表現の自由を守り、公正かつ中立な報道をするとともに、 社会生活に役立つ番組やイベントなどを提供します。
4. 健全な企業活動	社会良識に基づいた適正な取引きを行い、健全な企業活動を推進します。
5. 情　報　開　示	経営の透明性を確保するため、当社が保有する情報は適正に管理し、 企業情報を社内外に公正に開示します。
6. 職　場　環　境	従業員の個性、人格を尊重し、その能力、活力が十分発揮できるよう 安全で明るい職場環境づくりを行います。

＜編纂・監修＞
東海テレビ放送　コンプライアンス推進局　コンプライアンス推進部
〒461-8501　愛知県名古屋市東区東桜一丁目14番27号
Tel. 052-951-2511（代表）　http://tokai-tv.com/

発行年月　2017年8月　※文中の所属・肩書については原稿作成時点のものとなっています。

東海テレビ